

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

● 4段階評価結果
 A：上位目的である施策に貢献しているので継続する
 B：事務事業の実施手法や環境（予算的・人的）に改善が必要
 C：縮小等、事務事業としての見直しが必要
 D：事務事業の廃止が相当

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	消防体験フェア事業							
1-2 担当	部	消防本部	課 又は施設	消防総務課	係	庶務係	評価票作成者	課長補佐兼企画・消防広域担当係長 相木義博
1-3 総合計画における施策の体系	①節	生活環境 安全・安心でうるおいのあるまちづくり			③基本施策	消防・救急	コード	1-3-2
	②項	生活安全・安心			④単位施策(中)	消防体制の強化	コード	1-3-2-2
					⑤単位施策(小)	消防団の活性化対策、消防団及び消防のPR	コード	1-3-2-2-4
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	消防団員、市民		意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）	市民の安心と安全のために活動している消防団の育成支援及び消防団および消防を広く市民に知っていただくためのPR活動			
1-5 事務事業の内容	消防団活動を実施するためには、団員家族の協力が必要なため、消防活動を理解していただくことと日頃の消防団活動に感謝する目的で消防体験フェアを開催し、消防訓練、レスキュー体験、はしご車試乗、消防クイズ等の体験コーナーを通じ、消防団活動の理解と組織の活性化を図るもの。また、消防体験フェアを通じて、消防団、消防活動を市民に周知し、新入団員の加入促進及び消防団、消防署のPR並びに消防への関心を持っていただくことが狙いである。							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み			社会状況等の事務事業がおかれる環境把握			市民ニーズの認識			
	平成23年度	地域に密着した消防団員の活動は、地域の安心安全を確保するうえで必要であり、市民ニーズも高まってきている。しかしながら、全国的に消防団員が減少しており、本市においても今後の問題として捉え、消防団の活性化事業の一つとして団員家族に対する消防団活動への理解、協力、さらには新入団員の加入促進を図る。								
	平成24年度	地域に密着した消防団員の活動は、地域の安心安全を確保するうえで必要であり、市民ニーズも高まってきている。しかしながら、全国的に消防団員が減少しており、本市においても今後の問題として捉え、消防団の活性化事業の一つとして団員家族に対する消防団活動への理解、協力、さらには新入団員の加入促進を図る。								
	平成25年度	地域に密着した消防団員の活動は、地域の安心安全を確保するうえで必要であり、市民ニーズも高まってきている。しかしながら、全国的に消防団員が減少しており、本市においても今後の問題として捉え、消防団の活性化事業の一つとして団員家族に対する消防団活動への理解、協力、さらには新入団員の加入促進を図るとともに消防団、消防を市民に知っていただくためにPR活動を兼ねる。								
	平成26年度									
平成27年度										

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名			前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明				
	消防体験フェア参加者数(延べ人数)			270(人)	720(人)	団員(181人)の1/4世帯(1世帯当り約2人)を1開催あたりの参加者想定数として、消防団の活性化対策事業として実施する。				

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績 a (単位)			83(人)	72(人)	中止0(人)	54(人)	中止0(人)	50(人)		
	直接事業費 b (千円)			0	0	0	0	0	0		
	人件費 c (千円)			192	192	0	186	0	174		
	合計コスト d (b+c) (千円)			192	192	0	186	0	174		
単位コスト d/a (千円)	当たり	当たり	1人当たり 3	1人当たり 3	1人当たり 0	1人当たり 3	1人当たり 0	1人当たり 3	当たり	当たり	

アウトプット実績（活動数値）の補足説明 → 人件費 消防体験フェア 1日×4H×（事務局員5人+消防係員10人）×2,900円（時間単価）四捨五入

※ 平成25年度は管理職は管理職代休、係長以下は振替休日としたため人件費は0円

2-4 成果指標に対応する実績と達成度の推移		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	指標対応実績(単位)				83	155	155	209	209	259	
後期目標値に対する達成度(%)				11.5	21.4	21.5	29	29	36		

3 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果(アウトカム自己分析)	単年度担当課評価	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
				A	A	-	C	-	B		

3-2 現状・課題	他団体等との協働の有無・協働主体	<input type="checkbox"/> 市民(個人・家庭) <input type="checkbox"/> NPO・市民団体 <input type="checkbox"/> 区・町内会 <input type="checkbox"/> 企業・農協・商工会 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 国・県・市町 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> なし							
	他団体等と協働し行った事業内容・各々が担った役割	市	各種催しを実施（消防訓練、レスキュー体験、はしご車試乗、消防クイズ等の体験コーナー）						
		その他	露店の開設						
	事業実施により効果があったこと	消防団が露店の開設（たこ焼き）、野点を行い、飲食ができ、来客者を楽しんでいただいた。 消防・消防団員の理解が深まった。 消防団 新規消防団員の入団促進に繋がった。 消 防 消防業務の内容について理解をしていただき、市民の安全・安心に繋がった。							
	事業実施における課題	・少子化に伴い消防団員の子どもへの参加が少ないこと。また、消防団関係だけの閉鎖的な催しのため参加者が少なく消防団のPRが半減している。また消防団をPRするブースがなかった。 ・現存の子供服が老朽化し、さらに、汚く衛生的ではない。 ・消防子供服の数、品数が少ない。							
	課題に対する改善策	・老朽化した消防子供服の更新及び新種の消防服の導入 ・一般市民にも広く周知し参加者を増やす。 ・消防団ブースを設け、その場で操法、実際の訓練を行う。 また、過去の活動の記録（写真等）の展示、DVD等で映像を放映し、団員の育成を兼ねた消防団への理解、団員増員を狙う。							

4 ■新規事業

新規事業	事務事業の目的達成のためにできる新たな取組み(可能な限り協働の視点重視)	・催しをより魅力あるものとし、消防体験フェアをまつり化することで集客を増やし、消防団、消防をPRするとともに新入団員の促進を狙う。						
	協働者となり得る主体・協働し担う役割	市	・新しい催しの発掘（消防グッズの販売） ・老朽化した消防子供服の更新及び新型、新種の消防服の導入 ・消防団員家族だけでなく、一般市民に多数参加してもらえるように広く広報を行う。					
		その他	・消防団活動のPR（消防団について知ってもらう） ・新規消防団員の加入促進 ・露店等の開設による集客力の向上					

5 ■事務事業の総合評価結果

総合評価の結果	結果	審査会による改善方向の指示
	平成25年度	B

6 ■次年度事業への反映

事務事業の方向性内容	B 改善	消防体験フェアを開催することで消防業務に関する認識を深めていただき、消防の重要性及び、消防団の必要性を訴える。
------------	------	---